

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 25 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520051

研究課題名(和文) 日本中世期における易学の受容と発展に関する研究

研究課題名(英文) A Study on acceptance and practice of I-Ching in the medieval Japan

研究代表者

近藤 浩之 (KONDO, Hiroyuki)

北海道大学・文学研究科・准教授

研究者番号：60322773

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：桃源瑞仙の『百衲襖』(別名『易抄』)は、日本の中世期における、『易経』経伝全体及びそれに対する解釈学・術数学・実用学をほぼすべて集大成した講義ノートである。まさに古注と新注、義理と象数、基本と応用を総括した、日本中世易学の大総集編である。さらに桃源瑞仙独自の易学説をも含んでおり、日本中世易学の実態を如実に反映している。

研究成果の概要(英文)：Tougen Zuisen's lecture notebooks on I-Ching named Hyaku-nou-ou was a grand sum of studies of I-Ching in the medieval Japan. Many of them gave lectures on total studies of interpretations and mathematics and applications of I-Ching. Therefore Tougen Zuisen's lectures was a really best grand sum of combining both new meanings and old meanings, sense and figure, basics and practices of I-Ching in the medieval Japan. and it was adding his original idea about studies of I-Ching.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：中国哲学

キーワード：易 日本中世 抄物 桃源瑞仙 百衲襖 易学啓蒙 国際研究者交流 国際情報交換

### 1. 研究開始当初の背景

日本中世期の易学の実態を知るために、最も重要な資料として次の三つを挙げることができる。イ) 足利学校に在学し後に近江永源寺に住した柏舟宗趙(1416-1495)の『周易抄』、ロ) 中世易学の集大成者と評される禅僧桃源瑞仙(1430-1489)の『百衲襖』(『易抄』)、ハ) 清原宣賢(1475-1550)自写の『易学啓蒙抄』『易学啓蒙通釈』『易学啓蒙通釈口義』である。

イ) 柏舟の『周易抄』については、鈴木博『周易抄の国語学的研究』(研究篇・影印篇)(清文堂、1972年)という詳細な研究があり『周易抄』の研究に確かな基盤を提供している。

ロ) 桃源の『百衲襖』については、足利衍述『鎌倉室町時代之儒教』(日本古典全集刊行会、昭和7年)において、「柏舟の周易抄と共に我国周易講義の嚆矢なり。桃源が儒教上に於ける功績は全く此一書に在り」、桃源の易講中の説は「専門家より見れば或いは牽強もあらん或は僻見もあらん。然れども、当時未開の学界に在りて苦心努力此研究を積めるは多とせざる可からず」と評され、芳賀幸四郎『中世禅林の学問及び文学に関する研究』(丸善株式会社、昭和31年)において、禅僧の易学研究の伝統をうけてこれを「集大成し、禅林易学不滅の金字塔を建立した」のが桃源瑞仙であると高く評価されているように、『百衲襖』が中世易学の研究において最も重要な資料であることは間違いない。また「余之言、乃自彊(竺雲等蓮)、北禪(瑞溪周鳳)、寶渚(雲章一慶)三大老、及一條臺閣(一條兼良)、清家環翠軒(清原業忠)之言也」(桃源『史記抄』)や「吾柏舟師ノ誓ハ……」(『百衲襖』)の言が語るとおり桃源は、禅林・博士家(及び公家)・足利学校の三つの学術的拠点の精粹を伝受する位置にあり、その説をほぼ忠実に『百衲襖』や『史記抄』に書き留めている。

ハ) 宣賢自写のものについては、京都大学蔵清原文庫に『易学啓蒙抄』2冊(清家1-62工3貴944933)・『易学啓蒙通釈』2冊(清家1-62工5貴944932)・『易学啓蒙通釈口義』1冊(上之二)(清家1-62工4貴944934)がある。ことに『易学啓蒙通釈口義』は、その表紙題簽に「易学啓蒙通釈口義上之二」、題簽下に「一栢講、月舟聞書」(双行)とある(興善宏・木津祐子編『京都大学附属図書館所蔵貴重書漢籍抄本目録』、京都大学附属図書館、平成7年を参照)。なお京都大学蔵清原文庫には、桃源が編修した『史記抄』20冊および『漢書抄』6冊があり、それぞれ宣賢とその子業賢との筆と認められ、さらに桃源『百衲襖』も『易抄』3帙23冊(清家1-62工7貴98063)として存在し、その最終冊(第23冊)奥書に「文明九年歳舍丁酉季春谷雨日、亦庵村僧書于點易亭」(「亦庵」は桃源の号)とある。そもそも清原宣賢(1475-1550)の祖父業忠(1409-1467)は、朱子の詩文を集めた

『晦翁集』を読み、朱子の述作に成る『易学啓蒙』を講ずるなど(『建内記』嘉吉元年四月条、『百衲襖』巻五識語)、宋学と易学に造詣が深かったようである。

しかし、イ)ロ)ハ)いずれも、国語学的研究の蓄積はあるものの、その思想内容や思想史的意義についての考察はあまりなされていなかった。

### 2. 研究の目的

(1) 日本中世期における易学の受容と発展の実態を明らかにするために、日本中世易学注釈の集大成と見なされる桃源瑞仙(1430-1489)の『百衲襖』(『易抄』)を中心に、その前後・周辺の易学関連文献をも含めて、その『易』解釈の特徴を分析して研究する。

(2) 併せて当時の足利学校・博士家・禅林という三つの学術的拠点の有機的な結合を基礎として興隆し一つの最高潮の様相を呈した日本中世易学の独創的な特徴を、中国の注疏学(旧注)と朱子学(新注)の影響と日本独自の解釈や工夫とを比較・分類しつつ、明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究では、中国は宋明時代、日本は室町時代(特に応仁の乱以降の戦国時代)、すなわち足利学校が実用的な易学の研究・教育の中心機関として機能し興隆した時期を主要な研究範囲とし、足利学校の柏舟宗趙とその『周易抄』、禅林易学を代表する桃源瑞仙とその『百衲襖』、博士家の易学を代表する清原宣賢らとその『易学啓蒙抄』などを主要な研究対象とする。

(2) 特に桃源瑞仙『百衲襖』を中心に研究・分析を行い、日本における朱子学的易学の受容と、日本独自の解釈と工夫による日本式易学の発展とを、区別し比較しながら考察する。

(3) なお、大塚光信「史記抄について」(『抄物資料集成』第七巻所収、清文堂出版、1976年)によれば、『百衲襖』の現存本は次の6種である。建仁寺兩足院蔵本(現存23冊、「百衲襖」の題簽を持つ)、慶応大学附属図書館蔵本(現存19冊、兩足院本の写しであることが奥書から知れる)、京都大学附属図書館蔵本(現存23冊、外題「易抄」)、京都大学附属図書館蔵本(現存17冊、外題「百衲襖」)、京都大学附属図書館蔵本(現存2冊、外題「百衲襖」)、蓬左文庫本(現存19冊、外題「周易抄」)。完全にそろったものはなく、冊番号も各本によってまちまちである。また今泉淑夫『桃源瑞仙年譜』(春秋社、1993年)第一部注(16)によれば、東京大学史料編纂所には、『百衲襖』と題する抄出本1冊(2022・1)(建仁寺兩足院蔵本写、昭和十六年十一月写)と『百衲襖』

識語抜粹』1冊(2022・2)(積翠軒文庫石井光雄氏蔵本写、昭和二年十月写)が架蔵されているし、『大日本史料』第八編之二十九に「東京帝国大学旧蔵焼失本」として引用される一本がある。まず京都にある . . . を閲覧し、可能ならば複写を入手することが急務である(ただしは入手済み)。今泉氏(前掲)も指摘する通り、特に現存23冊の と の全体的な比較がのぞまれる。その後は、6種各本の異同や派生的な系統に関する詳細な調査が必要である。

以上の目的と方法により十分な研究成果を得るために、三年間の研究期間内に行う具体的な作業は、(a)中世易学関連資料の入手、(b)入手情報の整理、(c)研究題目に関わる考察、(d)国内外の研究者との情報交換、(e)易抄関連資料集の編輯、という5項目によって構成される。

#### 4. 研究成果

(1)「3. 研究方法」の具体的な作業として掲げた(a)~(e)の各項目について、その主な研究成果を説明する。

(a)中世易学関連資料の入手については、『百衲襖』の現存本6種のうち主要な3種類、慶応大学附属図書館蔵本(現存19冊、両足院本の写し)と京都大学附属図書館蔵本(現存23冊、外題「易抄」と蓬左文庫本(現存19冊、外題「周易抄」)は、実物(前2種)を閲覧するとともに、その複写(及び画像データ)を入手し、その内容の研究と調査に専念した。

(b)入手情報の整理については、各研究分担者が、その分担部分にしたがって整理中であり、残念ながら、いまだ有用なデータベースの形にはなっていない。

(c)研究題目に関わる考察については、下の「5. 主な発表論文等」に掲げる雑誌論文や学会発表により、その考察の成果が部分的に示されている。考察によって明らかになったことの概要は、次の(2)に述べる。

(d)国内外の研究者との情報交換については、研究代表者(近藤浩之)と研究分担者(水上雅晴、石井行雄)が国際シンポジウムや国内シンポジウムに出席して、日本の易学に関する情報交換を行うとともに、研究発表を行なった。また2013年2月に、香港中文大学日本研究学系の呉偉明教授を招へいし、京大人文術数学研究会(代表:武田時昌教授)との共催による術数学国際シンポジウム2013において「高島呑象の易占と明治期の政治、軍事」(於京都大学人文科学研究所)、また北海道中国哲学会例会(北海道大学大学院文学研究科特別講演)において「徳川時代における国学者の『易経』研究:平田篤胤を中心として」(於北海道大学文学研究科)、という二つの講演を行ってもらったことは重要な成果である。今後その内容を日本語に翻訳して発表する予定である。また、2013年

11月には、基盤研究(B)「日中校勘学の発展と相関をめぐる複合的研究」(代表者:水上雅晴)との共催で、中国・香港・台湾・日本から研究者を招へいし研究組織構成員も参加する国際シンポジウムを開催して研究成果を国内外に向けて発表した。

(e)易抄関連資料集の編輯については、最終的には、京都大学附属図書館蔵本『百衲襖』(現存23冊、外題「易抄」)の翻刻及び解題・注釋を作成することを目指している。しかし現在、そのうち2冊程度のデータを入力したに過ぎず、内容の整理・編集も不十分で、完成にはほど遠い。今後は出来上がった冊から順次、『紀要』等に発表していく予定である。

(2)研究題目に関わる考察の概要は、次の通りである。

1)桃源の易學は、尊敬する胡一桂の易學の継承が中心である。『百衲襖』では、朱子『易學啓蒙』の學を極めるため、胡方平『易學啓蒙通釋』・胡一桂『易學啓蒙翼傳』を講義し、特に胡一桂の易學を懇切丁寧に解説する。

2)また桃源は、胡一桂『翼傳』によって易傳(易學啓蒙)を、胡一桂『纂疏』によって易經(六十四卦)を講義したかったようだが、『纂疏』の方は入手できなかったため(『百衲襖』京大23冊本之第1冊)、やむを得ず董楷『周易傳義附録』によって講義したようである。

3)易學の受容と展開の一例として、胡一桂が引用した「以三錢擲之」について、桃源は、『大易斷例卜筮元龜』の「以錢代蓍法」「擲錢爻式」「擲錢卦爻式」などを引用・抄寫し、さらにその擲錢法による占いの實踐例と問題点を、具體的に講義する(『百衲襖』京大23冊本之第5冊)。實はそこにも桃源の『易學啓蒙』研究の成果が十分に盛り込まれており、そこに日本独自の解釈と工夫が見られている。

4)また別の一例として、桃源は『易學啓蒙』明蓍策を解説した胡方平『易學啓蒙通釋』の「案潤法」を講述し、自身苦手な曆法の算術法をその術法に明るい者に就いて質しながら(『百衲襖』京大23冊本之第7冊「余不能通算術、故就明其法之人、以質之」)丁寧に図示し説明している。

5)『百衲襖』は桃源が師事した柏舟の易學(易說)をかなり取り入れている(『百衲襖』京大23冊本之第5冊、第7冊)が、柏舟『周易抄』の易解題(特に六十四卦經文に対する解題)と同じというわけではない。つまり、足利学校の易學の伝統と影響を十分に受けてはいるが、それ以前の学問への反省を踏まえて独自の解釈と工夫を示している。

6)「日本ノ大外記環翠老人清三位法名常忠(清原業忠)八、得講書三昧第一等ノ名儒ナリ、前關白一條殿下(一條兼良)二次テ八古今無雙ノ名儒也。余皆陪其講筵、親聽諸論矣。」

(『百衲襖』京大 23 冊本之第 7 冊) という言葉が象徴するように、桃源は博士家の清原業忠から多大な影響を受けている。特に『易学啓蒙』の解釈や『大易斷例ト筮元龜』に関する知識は、清原業忠に由来する可能性が高いが、今のところその検証は不十分なので今後の課題である。

7) 日本中世易学の重要な中心軸は、朱熹『易学啓蒙』の解釈と実践の工夫であり、『百衲襖』はそれを(禅林・博士家・足利学校の三拠点の有機的な交流を通じて)総集しかつ丁寧に解説しさらに独自の見解をも加えている。

8) 禅林・足利学校・博士家の易学を総合した『百衲襖』は、日本における『易学啓蒙』の受容と展開の様相や特色を如実に示している。桃源瑞仙『百衲襖』は確かに日本中世易学のほぼ全ての内容と情報を保存している最重要資料である。

以上の考察の詳細は、本研究による考察の総括である「桃源瑞仙『百衲襖』の易学」として、『中国哲学』第 41 号(北海道中国哲学会、2014 年)に掲載する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 3 件)

加藤真司、近一百年日本研究《周易》概況 1900-2010 年之回顧與展望、経学研究論叢、査読有、第 20 輯、2014、1-36 (予定)

近藤浩之、「神明」の思想 『易伝』を中心に、佐藤鍊太郎・鄭吉雄編著『中国古典の解釈と分析 日本・臺灣の學術交流』、北海道大学出版会、査読無、2012、61-72

石井行雄、『古今和歌集』語彙から見た『源氏物語』の「あさまし」、語学文学、査読無、第 50 号、2012、55-64

#### 〔学会発表〕(計 13 件)

近藤浩之・猪野毅、明治改曆與奇門遁甲書、明清中國與日本學術研討會、2013 年 12 月 20 日~21 日、香港中文大学日本研究学系(中国)

近藤浩之、桃源《百衲襖》中之曆學與天文觀、「校勘と經典」国際學術シンポジウム、2013 年 11 月 18 日~19 日、琉球大学教育学部(那覇市)

水上雅晴、琉球久米土族的漢学及校勘以楚南家文書為中心、「校勘と經典」国際學術シンポジウム、2013 年 11 月 18 日~19 日、琉球大学教育学部(那覇市)

近藤浩之、日本中世易學之集大成 桃源瑞仙の易學、2013 年南開大学哲学院講演(招待講演)、2013 年 11 月 7 日、南開大学日本研究院(中国)

西信康、中国古代道家思想の万物生成論と郭店楚簡『太一生水』、北海道中国哲学会四月例会、2013 年 4 月 26 日、北海道大学大学院文学研究科(札幌市)

近藤浩之、桃源『百衲襖』の魅力 『易学啓蒙通釋』『翼傳』の解釋と實踐、術數學國際シンポジウム 2013、2013 年 2 月 13 日、京都大学人文科学研究所(京都市)

水上雅晴、蘇東坡詩抄物に見る五山僧侶の経学 易説を中心に、術數學國際シンポジウム 2013、2013 年 2 月 13 日、京都大学人文科学研究所(京都市)

石井行雄、『訓閲集』と「頼義手日記」内閣文庫本『訓閲集』(五冊本)をめぐって、術數學國際シンポジウム 2013、2013 年 2 月 13 日、京都大学人文科学研究所(京都市)

近藤浩之、日本中世期における易學の受容と展開 桃源『百衲襖』と胡一桂『易学啓蒙翼傳』、科研基盤(A)「文明移動としての『佛教』からみた東アジアの差異と共生の研究」シンポジウム「中国占文化の日本の展開」、2013 年 1 月 26 日、早稲田大学(東京都新宿区)

近藤浩之、日本中世期易學之集成 桃源瑞仙之易學、2012 年漢學研究學術研討會、2012 年 10 月 26 日~27 日、雲林科技大学漢学資料整理研究所(台湾)

加藤真司、三蘇の義利觀、北海道中国哲学会十二月例会、2011 年 12 月 22 日、北海道大学大学院文学研究科(札幌市)

水上雅晴、日本易学中的禁忌、上海師範大学哲学学院・上海師範大学国際儒学院(招待講演)、2011 年 12 月 21 日、上海師範大学文苑楼 1115 室(中国)

近藤浩之、桃源瑞仙の易學について、北海道中国哲学会六月例会、2011 年 6 月 24 日、北海道大学大学院文学研究科(札幌市)

#### 〔図書〕(計 1 件)

西信康、北海道大学出版会、『郭店楚簡『五行』と伝世文献』、2014、184

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

近藤 浩之 (KONDO, Hiroyuki)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：6 0 3 2 2 7 7 3

### (2) 研究分担者

水上 雅晴 (MIZUKAMI, Masaharu)  
琉球大学・教育学部・准教授  
研究者番号：6 0 2 6 1 2 6 0

石井 行雄 (ISHII, Yukio)  
北海道教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：6 0 2 4 1 4 0 2

加藤 眞司 (KATO, Shinji)  
北海道大学・大学院文学研究科・専門研究  
員  
研究者番号：6 0 5 5 3 0 4 7

西 信康 (NISHI, Nobuyasu)  
北海道大学・大学院文学研究科・専門研究  
員  
研究者番号：3 0 5 7 1 0 6 2

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：